

校長室だより

八代市立龍峯小学校
校長 村嶋 博史



学校教育目標 「**学びを生かす子供**」

～自信と誇りをもった「きらりと輝く龍峯っ子」の育成～

R2,9,24

NO,22

「自律」～自分で線が引ける子供を目指して～

9月17日(木)、これまで同様に新型コロナウイルス感染症の感染防止対策をとった上で、全校集会(校長講話)を行いました。今回は、子供たちに「自律」(節度を保つ)について、「線を引く」というイメージの力を借りて話をしました。

(前段省略)

世の中には、線は引かれていないけど、色々な物事に対して、越えてはいけない線があると思います。

例えば、「授業中に無駄なおしゃべりをしたり、立ち歩いたりする」や「友達に嫌なことを言ったり、したりする」、「挨拶や返事を人によって言ったり、言わなかったりする」「スーパーやコンビニ、図書館など多くの人が利用する所で走ったり、騒いだりする」「自転車にノーヘルで乗ったり、一旦停止をしなかったりする」など、全部越えてはいけない線ですよ。

しかし、なかなか自分では線が引けない人がいますよね。幼児(小さい子供)は仕方ありません。そこで叱られて、だんだん自分で、こういうときは、この辺が線なんだと学んでいる最中ですから。

しかし、小学生になってもそれじゃ、幼児と変わらないということだから、ちょっとはずかしいですよ。自分が発する言葉や行動については、「自分で線を引ける」ようになってほしいと思います。そして、それが「自律」ということになります。

最近、ついつい越えてしまっている線や越えそうになっている線はありませんか、思い浮かべてみましょう。そして、これからは絶対に線を越えないように心がけて行動しましょう。



今後、全職員で、折に触れ、子供たちの言動に対し、「今のは線ギリギリだよ」とか「今のは線を越えていないか?」と問いかけ、子供たちに「自律」について意識させようと考えています。そして、最終的には「自分で線が引ける子供」を目指します。

子育て一口メモ

「集中力も『力』のうち」

幼児教育家 はやし浩司

よく、「うちの子は、集中力がありません。集中力をつけるには、どうしたらいいのでしょうか。」という質問をもらう。しかし集中力も、「力」のうち。頭を良くする方法が、そんなになく、集中力をつける方法というのも、それほど、ない。あれば、私が知りたいくらいである。ただ指導の仕方によって、子供を、ぐいぐいとこちらのペースに引き込んでいくことはできる。しかし集中力のある・なしは、子供の問題ではなく、指導する側の問題ということになる。

※学校ホームページに本紙のカラー版の他、様々な情報を掲載していますのでご覧ください。

八代市立龍峯小学校 でご検索ください。